

# 中学校 国語科

## 1 改訂の趣旨及び要点

### 目標の構成の改善

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、**国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力**の育成をめざす。

知識・技能の習得

**社会生活**に必要な国語について、その**特質を理解し適切に使う**ことができるようにする。

思考力・判断力・表現力等の育成

**社会生活**における人との関わりの中で**伝え合う力**を高め、**思考力**や**想像力**を養う。

学びに向かう力・人間性等の涵養

言葉がもつ**価値**を認識するとともに、**言語感覚を豊かにし**、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその**能力の向上を図る態度**を養う。

### 内容の構成の改善

現行学習指導要領

話すこと・聞くこと

書くこと

読むこと

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

新学習指導要領

【知識及び技能】

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
- (2) 情報の扱い方に関する事項
- (3) 我が国の言語文化に関する事項

【思考力・判断力・表現力等】

- A 話すこと・聞くこと
- B 書くこと
- C 読むこと

現行学習指導要領の3領域及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」という構成が、**【知識及び技能】**及び**【思考力、判断力、表現力等】**という内容構成になりました。

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」は、**相互に関連し合いながら育成**を図ります。

「**学びに向かう力、人間性等**」は、指導事項のまとめごとではなく、**教科及び学年の目標においてまとめて示**されています。

### 学習内容の改善・充実

【知識及び技能】と【思考力、判断力、表現力等】の各指導事項について、育成をめざす資質・能力が明確になるよう内容を改善しています。

1 語彙指導の改善・充実

「語彙は、全ての教科等における学習の基盤となる重要な要素である。」このことを踏まえ、**語句への理解を深める指導事項を系統化**して示しています。

2 情報の扱い方に関する指導の改善・充実

「**情報の扱い方に関する事項**」を新設し、「**情報と情報との関係**」と「**情報の整理**」の**2つの系統**に整理して示しています。

3 学習過程の明確化、「考えの形成」の重視

【思考力、判断力、表現力等】の各領域において、**学習過程を明確**に示し、指導事項を位置付けています。また、**全ての領域において、「考えの形成」に関する指導事項**を位置付けています。

4 我が国の言語文化に関する指導の改善・充実

「伝統的な言語文化」、「言葉の由来や変化」、「書写」、「読書」に関する指導事項を「**我が国の言語文化に関する事項**」として整理して示しています。

### 学習の系統性の重視

各指導事項と言語活動例のそれぞれにおいて、**重点を置くべき指導事項を明確化**し、その**系統化を図**っています。

### 授業改善のための言語活動の創意工夫

**各学校の創意工夫による授業改善**が行われるようにするため、**言語活動例が種類ごとにまとめて示**されています。

### 読書指導の改善・充実

【知識及び技能】に「読書」に関する指導事項が位置付けられ、「**読むこと**」の領域では、**学校図書館などを利用して様々な本などから情報を得て活用する言語活動例**が示されています。

## 2 中学校国語科における授業づくりのポイント

言語活動を通して国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育む

言語能力を育成する国語科では、**資質能力（指導事項）を明確にし、適切な言語活動**を位置付け、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する**資質・能力を育成します**。例として、「C 読むこと 言語活動例 イ」をふまえた事例で説明します。

**例** 第2学年「登場人物へのインタビュー記事を書こう～言動の意味を考える～」(「走れメロス」より)

**【知識及び技能 (1)イ 話し言葉と書き言葉】**

話し言葉と書き言葉の特徴について理解すること。

**【思考力、判断力、表現力等 C 読むこと イ】**

登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること。

**Point**

この単元で育成をめざす資質・能力が明確になるよう、【知識及び技能】や【思考力、判断力、表現力等】の指導事項を設定します。

◆「走れメロス」を題材とした主な学習活動を例示します。

**Point**

指導事項をふまえて指導のポイントを考えます。

時	主な学習活動		
1	・学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・全文を読む。	構造と内容の把握	・文章全体と部分との関係に注意しながら登場人物の設定の仕方などを捉えます。
2	・語句、場面の展開、描写に注意して全体を概括する。		
3	・処刑場の場面の概要を読み取り、作品の印象をワークシートに書く。	精査・解釈	・登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈します。
4	・「メロス」「王」「セリムティウス」のいずれかを選び、メロスが約束を守ったことに対して、それぞれの人物にインタビューをした想定でインタビュー記事にまとめる。		
5	・インタビュー記事を基に、①「同じ人物」②「違う人物」のグループで、人物について気付いたことを交流し合う。	考えの形成、共有	・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりします。
6	・第3時で書いた印象と比較し、同じ出来事を別の人物の視点で読むと、印象が変わることに気付く。 ・単元の学習を振り返る。		

単元でどのような学習を行い、どのような力をつけるのか、学習の見通しを持たせます。

「インタビューをする」という言語活動を通して「登場人物の言動の意味」を読むようにします。

交流活動を行うことで、根拠を整理しながら、それぞれの人物の思いを多面的に、深く読めるようにします。

自分の学びや変容を自覚できるようにします。

**Point**

子どもの資質・能力を育て、学習の質を一層高めます。

子どもが学習に主体的に取り組めるよう、学習の見通しをもたせ、自身の学びや変容を自覚させる場面などを設定しましょう。また、考えを交流したり、様々な知識を結びつけるなど「対話」を通して考えを更に深めたり、広げることを促すことが大切です。



子どもが書く「インタビュー記事」のモデル

**Point**

言葉による見方・考え方を働かせるとは、子どもが、言葉に着目して、言葉に対して自覚的になることです。

例えば、教科書本文との対話を通して、インタビュー記事にするための言葉に着目させます。言葉に着目して考えさせたり、表現させたりして、言葉の力をつけていくことが大切です。

インタビュー記事にするために、どんな言葉を使えばいいかな。



〇〇のような言葉を使えば「王様」が話している感じが伝わるね。